

① 指導に対する意識

1-1 教員の指導観

10年に比べ、「強制的な学習」より「自主的な学習」を重視する小・中・高校教員が増加。

小・中・高校教員とも「自発的に学習する意欲や習慣を身につけさせること」を重視する教員が増加した。特に、高校は10年の60.2%から74.3%となり、小・中学校より増加幅が大きい(図1-1A)。

また、子どもの「可能性を支援する」か「教え訓練する」かをみると、小・中学校では、97年・98年～10年までは子どもの学びに対して、教員の強制的・教え訓練志向が強まっていたが、16年の結果をみると、子どもの自主性・可能性支援を重視する割合が増加に転じたことが分かった。高校も10年に比べ、子どもの「可能性を支援する」教員が増えている(中学校39.0%→44.7%、高校41.9%→46.2%) (図1-1B)。

10年に比べ、「楽しく学べる授業」を重視すると回答した教員の割合は小・中学校では微増であるのに対して、高校では、5.5ポイント増加し、小・中・高校ともほぼ5割～6割弱の教員が「楽しく学べる授業」を重視している(図1-1C)。教職経験年数別にみると、小・中・高校とも、教職経験年数が短い教員ほど「楽しく学べる授業」を重視する傾向が強い(図1-2)。

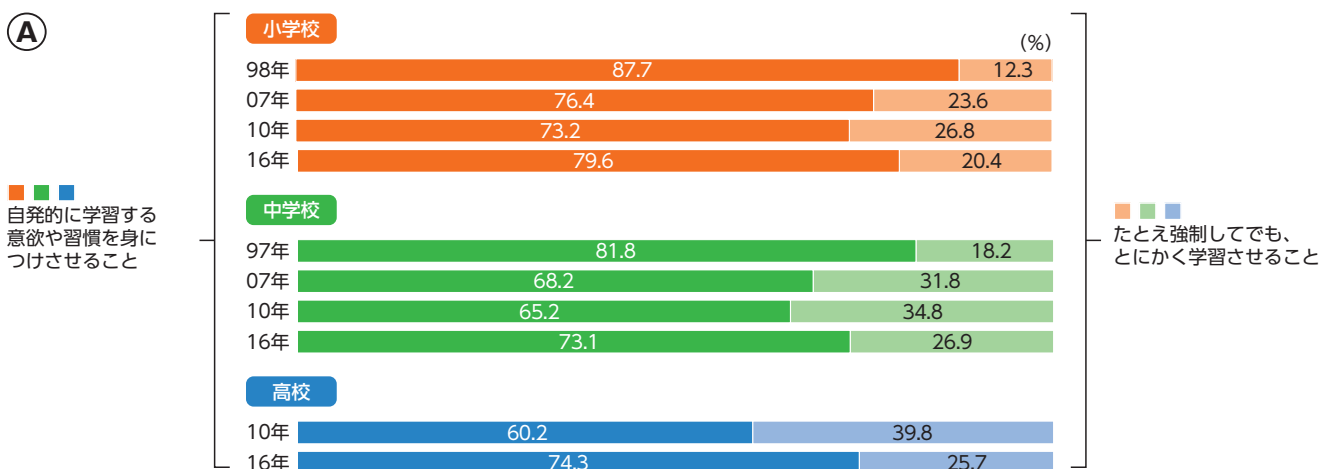
Q

あなたは、授業や生活指導・生徒指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。各ペアについて、あなたがあえていえば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

図1-1 教員の指導観①(経年比較) 小学校 中学校 高校 教員

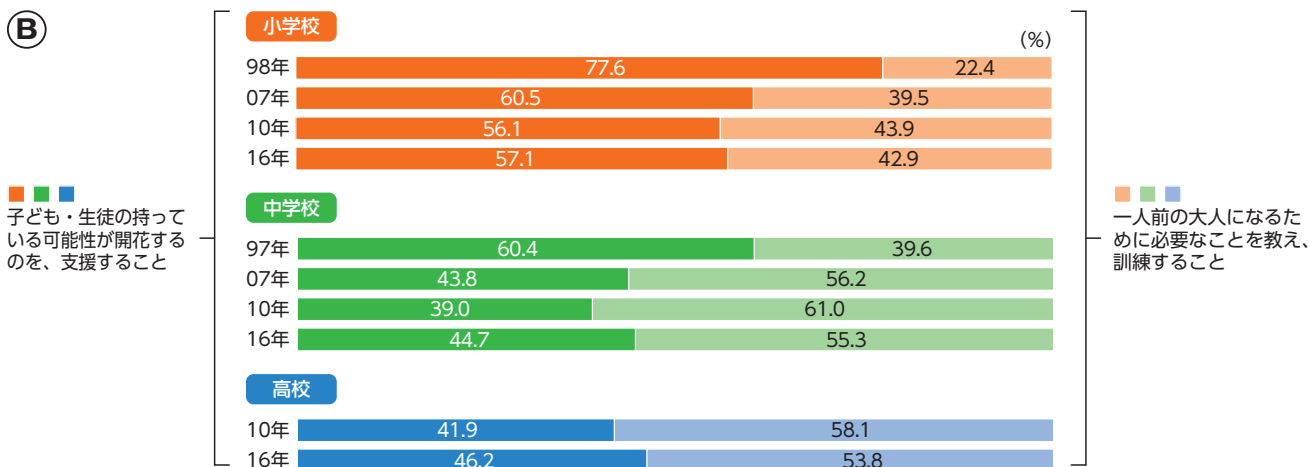
①自主性・可能性支援が訓練重視か

A

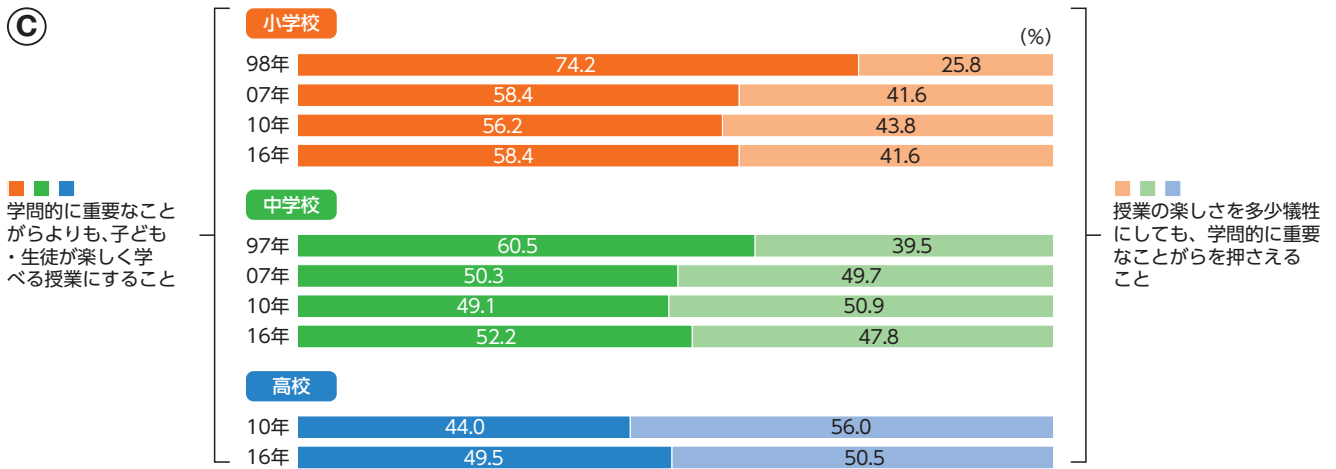


中学校・高校では「教え訓練する」より「可能性を支援する」傾向が強まっている。

B



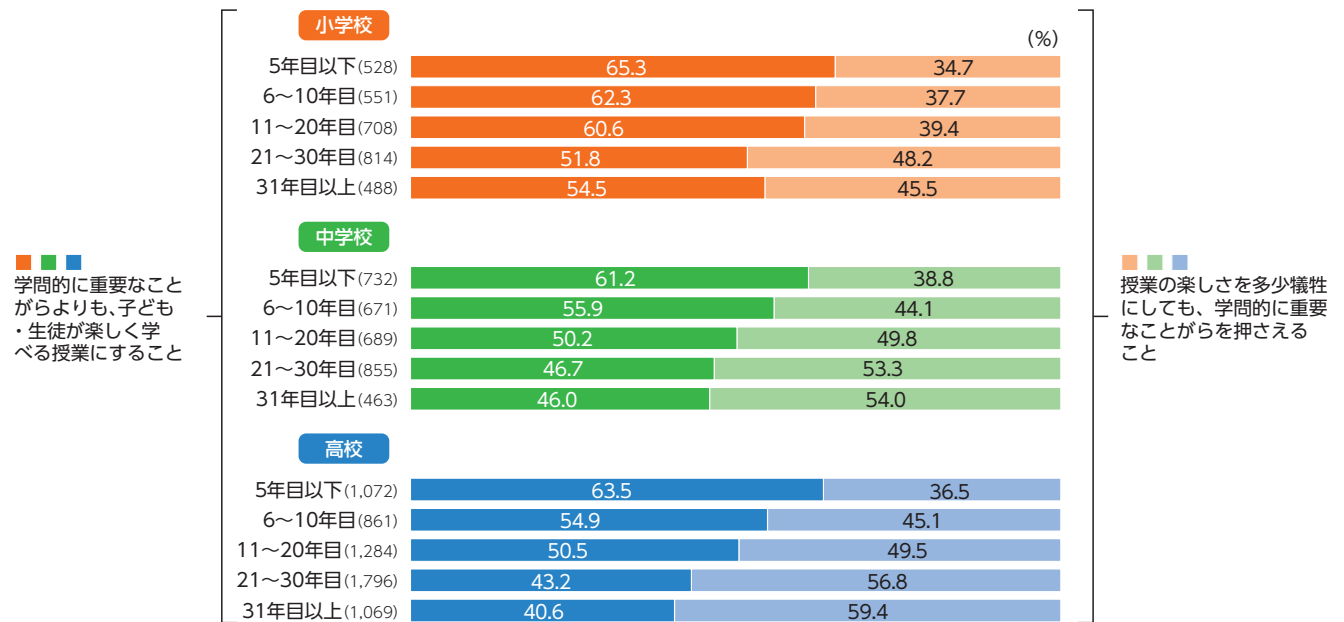
高校で「楽しく学べる授業」を重視する教員が4割強から5割に増加。



注1) 質問文は小学校では「授業や生活指導の面で」、中・高校では「授業や生徒指導の面で」としてたずねている。
 注2) 数値は無回答・不明を除いて算出している。図1-2も同じ。

教職経験年数が短い教員ほど「楽しく学べる授業」を重視。

図1-2 教員の指導観 ③ (教職経験年数別) **小学校** **中学校** **高校** **教員**



1-1 教員の指導観

小・中学校とも「教科書や指導要領の内容を、とにかく最後まで扱うこと」を重視する傾向が強まっている。

小・中学校では、97年、98年からずっと「教科書や指導要領の内容を、とにかく最後まで扱うこと」を重視する傾向だったが、16年ではその傾向がさらに強まり、小学校は約8.5割、中学校は約8割となった(図1-3㉔)。

「得意な教科や領域の学力をつけさせること」か「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」のどちらを重視するかをたずねたところ、小・中学校では07年からあまり大きな変化がみられず、小学校教員の7割、中学校教員の6割は「得意な教科や領域の学力をつけさせること」と回答した。高校では「得意な教科や領域の学力をつけさせること」を重視する教員は5割を超えていたが、16年では4割に減少した。一方で「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」の傾向が強まり、6割弱となった(図1-3㉕)。

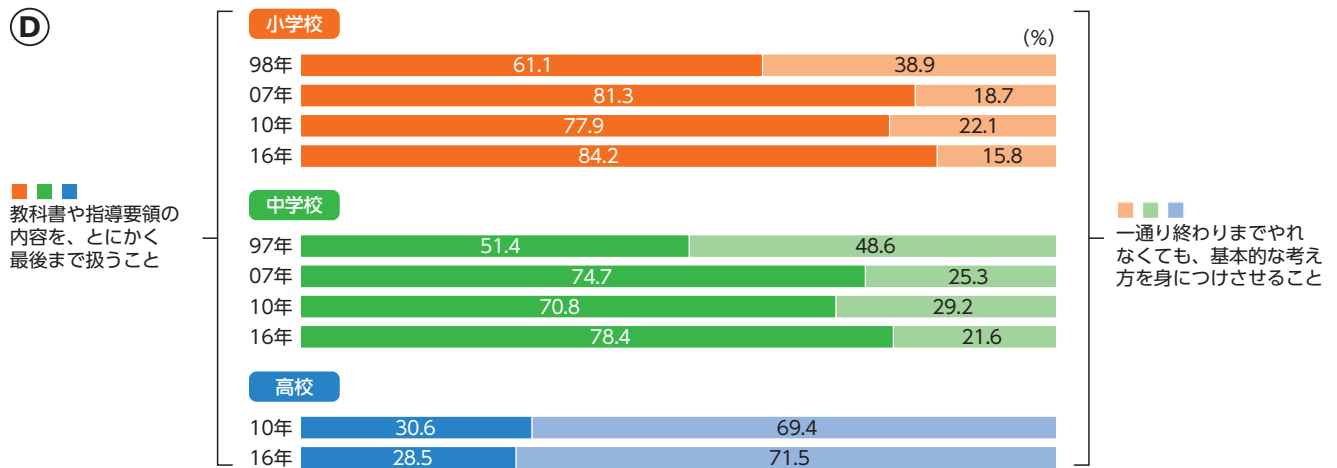
受験指導に関する回答をみると、「受験に役立つ力を学校の授業でも身につけさせること」が、小学校教員は98年調査以来、ずっと増え続けている。今回は10年に比べ、さらに6.1ポイント増加し、30.7%となった。中学校では10年調査の時にすでに86.2%の回答だったが、今回は約9割となった。小・中学校教員が受験に役立つ力をつけさせることを意識し、学習指導を行う傾向がますます強まっていることがわかった(図1-3㉖)。

また、小学校について人口規模別にみると、人口規模が小さい地域ほど、受験指導を学校の役割として捉える傾向が強い。校外学習が盛んであるかどうかと関連がありそうだ(図1-4)。

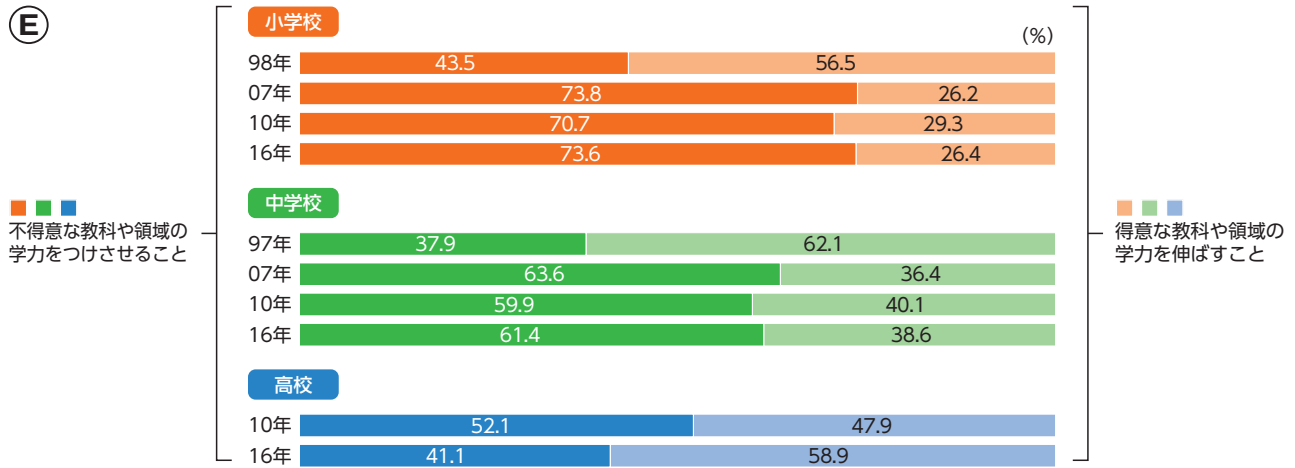
Q あなたは、授業や生活指導・生徒指導の面で、どのようなことを大切にしていますか。各ペアについて、あなたがあえて言えば重視していると思うほうの番号1つに○をつけてください。

図1-3 教員の指導観②(経年比較) **小学校** **中学校** **高校** **教員**

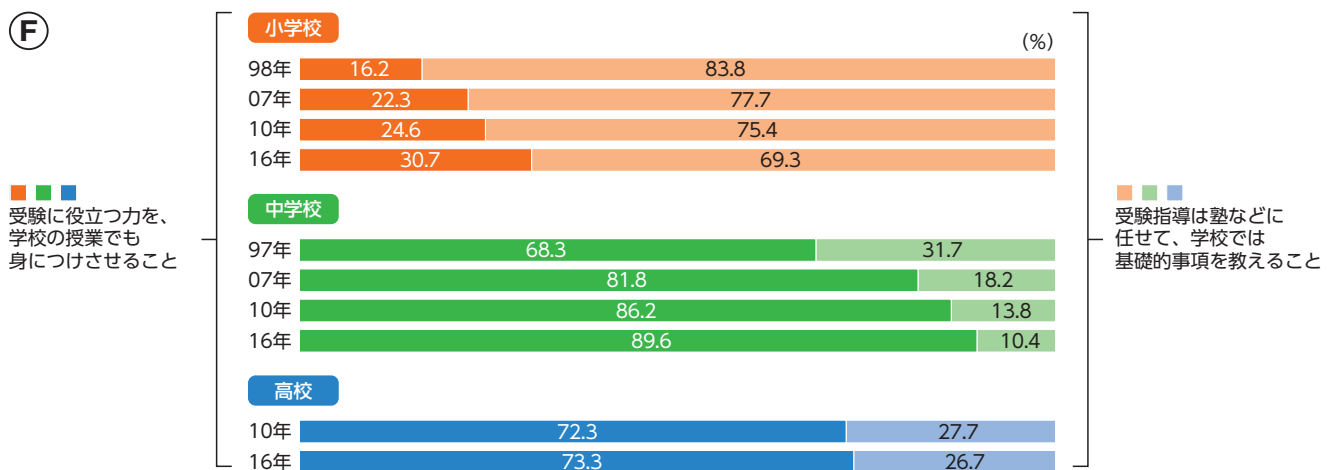
②教育内容、学校・教員の役割



「得意な教科や領域の学力を伸ばすこと」を重視する高校教員が大幅に増加し、6割弱となる。

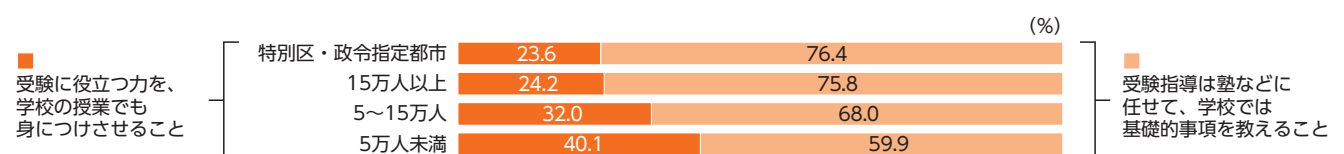


小・中学校では「受験に役立つ力を学校の授業でも身につけさせること」を重視する傾向が年々強まっている。



注) 数値は無回答・不明を除いて算出している。図1-4も同じ。

図1-4 教員の指導観 ⑥(人口規模別) 小学校 教員



注) サンプル数は、特別区・政令指定都市471名、15万人以上904名、5~15万人860名、5万人以下872名。

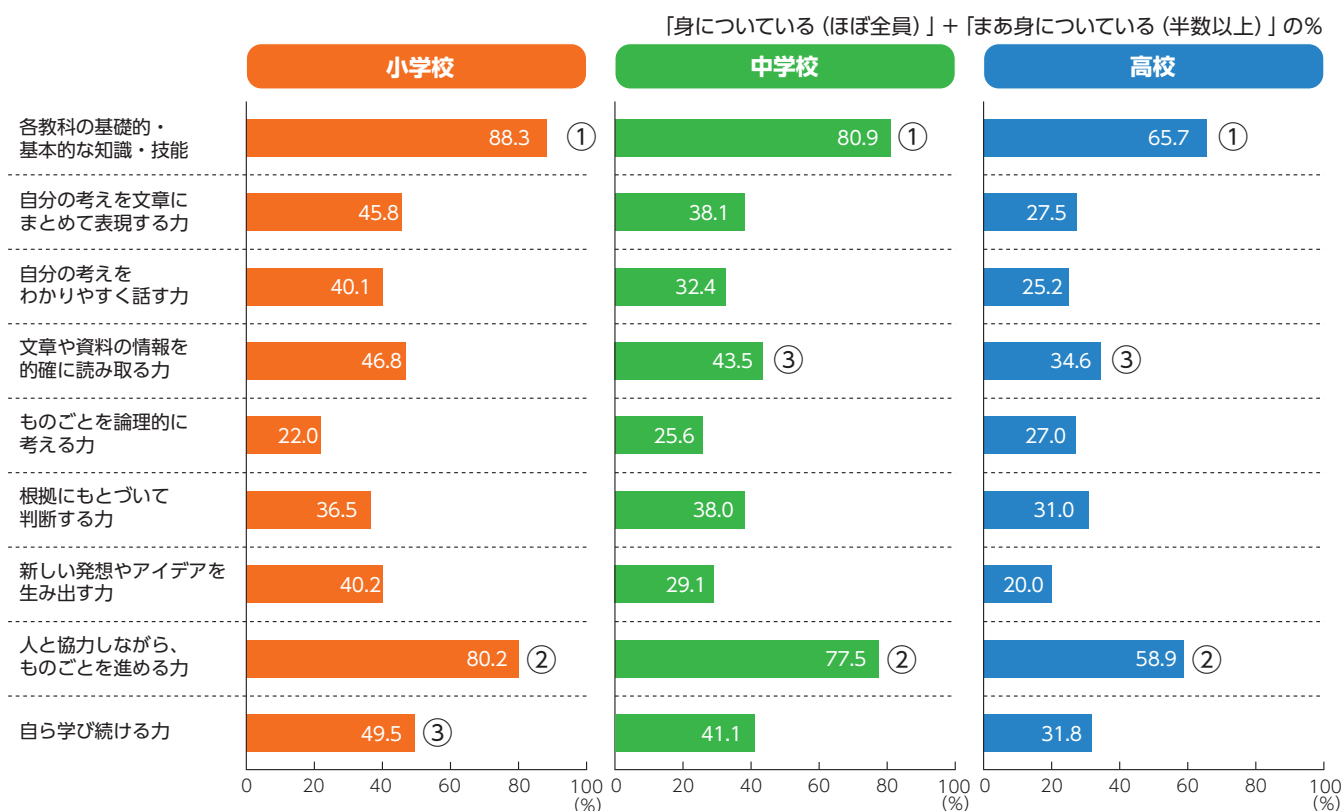
1-2 児童・生徒に身につけている力

小・中学校では「ものごとを論理的に考える力」、高校では「新しい発想やアイデアを生み出す力」の評価が低い。

児童・生徒に「身につけている」(「身につけている」+「まあ身につけている」、以下同)と感じている力として高いのは、どの学校段階でも「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」「人と協力しながら、ものごとを進める力」である。逆に評価が低いのは、小・中学校では「ものごとを論理的に考える力」、高校では「新しい発想やアイデアを生み出す力」であった。また、ほとんどの項目で、学校段階があがるにつれて「身につけている」との評価は各学校段階の求めるレベルが上がるのに応じて低くなる傾向がみられるが、「ものごとを論理的に考える力」のみわずかではあるが増加している。

Q あなたは、受け持ちの児童・生徒に関して、次のような力がどれくらい身につけていると思いますか。

図1-5 児童・生徒に身につけている力 **小学校** **中学校** **高校** **教員**



注1) 選択肢は「身につけている(ほぼ全員)」「まあ身につけている(半数以上)」「あまり身につけていない(半数以下)」「ほとんど身につけていない(一部児童・生徒のみ)」「わからない」の5択。

注2) 学校段階別に上位3位までを①~③と表示している。

1-3 児童・生徒に身につけさせたい力

「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」や「自ら学び続ける力」が上位に。

児童・生徒に「身につけさせたい力」の優先順位1位として挙げられたものは、小・中・高校とも「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」がもっとも高く、次いで「自ら学び続ける力」である。3番目は小・中学校では「人と協力しながら、ものごとを進める力」、高校では「ものごとを論理的に考える力」となっている。また、教員の年齢層別にみると、「各教科の基礎的・基本的な知識・技能」は年齢の高い層で高く、「人と協力しながら、ものごとを進める力」は若年層で高い傾向がみられている。

Q あなたが児童・生徒に身につけさせたいと思っている力を、優先順位の高い順に3つ選んでください。

